

# 我が若者育成の課題と 「社会人基礎力」の育成

平成26年6月

経済産業省

経済産業政策局 産業人材政策室

室長補佐 中島 大輔

# これからの社会人に求められること

## 「外（異）」への対応

- ボーダーレスに展開するマーケット→「**異国・異地域**」の人々と顧客・パートナーとしての協働
- サービス化・協業等の進展→**自社・自組織の範囲を超えた価値・魅力の編集・異業種・異分野連携**
- 技術の進化（深化）・細分化→**自らの領域を超えて顧客価値を「俯瞰」する力**

『自己完結できない時代』。社会価値を創造するためには分野や組織等、既存の枠組みを超えた活動が求められる。「外」に目を向け、バックグラウンド（専門性、文化、価値観等）の異なる人々と協働する力、自分の専門分野と異なる「もの」「こと」に目を向け、それらを自らのコアと結びつける力を身につけることが望まれている。

## 「学び直し」への対応

- 技術や製品のライフサイクルの短縮化→**働く人々の「学び直し」のサイクルが高速化**  
（5年越のヒット商品の比率：1970年代＝59.4%、2000年代＝5.6%）

企業の採用においても「学んだ結果」以上に、その過程において身につけた「学ぶ姿勢・行動特性・着想等」を重視し、望ましい行動の再現性に注目する傾向がみられている。

## 求められる「主体的行動」

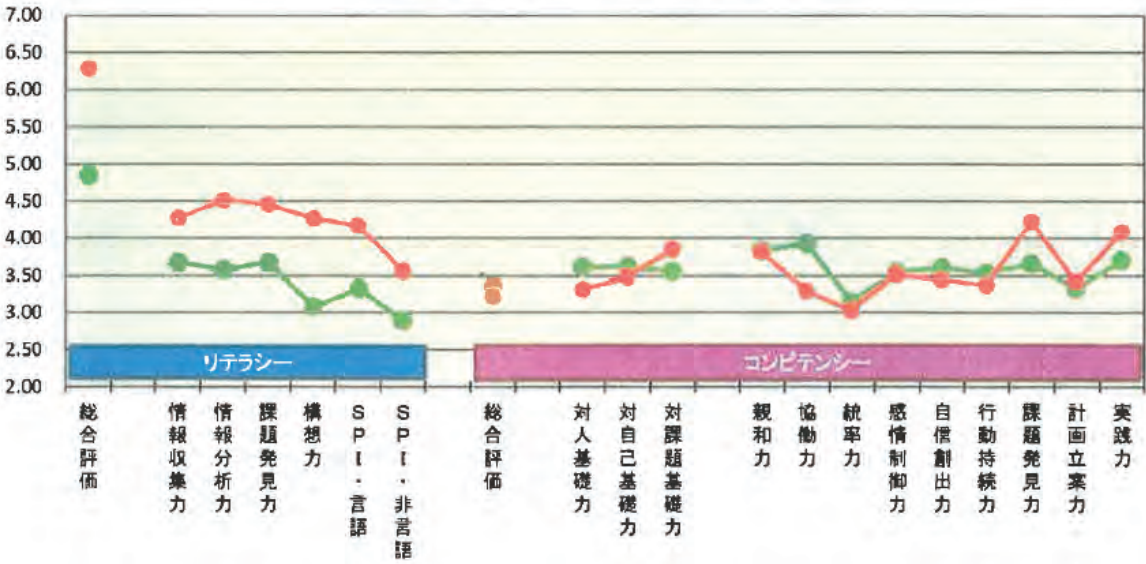
- ICT化の進展・職場環境整備・ツールの便利化→**仕事の高度化・単独化**

単純な仕事はシステム化され、若者に求められる業務の質も高度化する傾向。また一人で仕事を進める場面も多くなることで、ますます自らが主体者となって仕事をデザインし、周囲に働きかけ、巻き込んでいく行動が求められている。

# 大学における課題分析の事例（お茶の水女子大学）

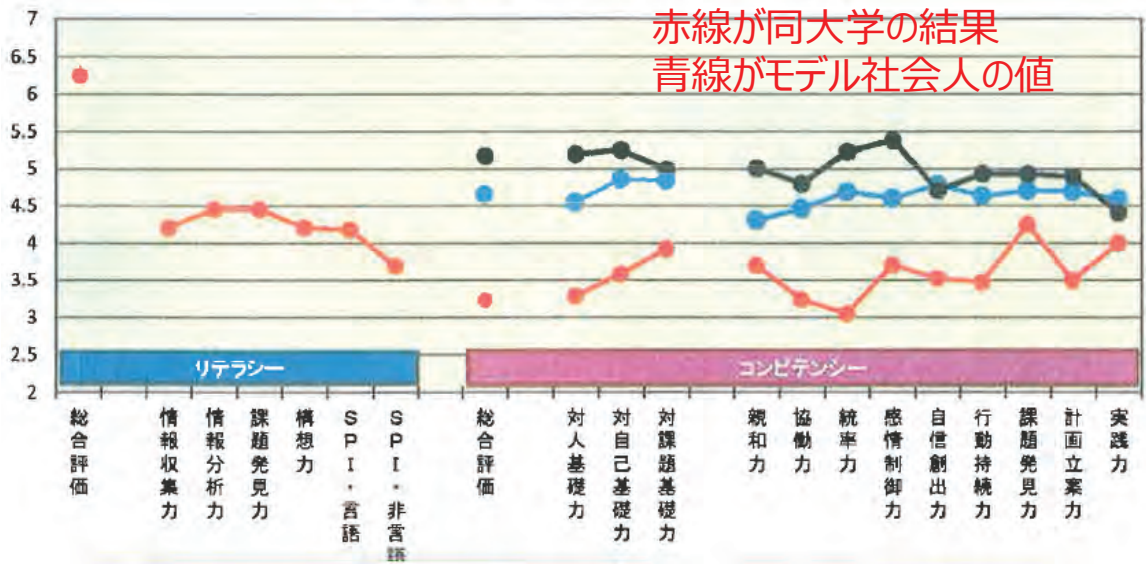
## 対 他大学

リテラシー・コンピテンシー要素  
 国立大学(文系) 貴学文系学部全体



## 対 社会人

リテラシー・コンピテンシー要素  
 モデル社会人 グローバル人材 貴学全体



- ・左図はお茶の水女子大学のアセスメント結果
- ・リテラシーは国立大学平均を大きく上回るが、コンピテンシーにおいては有意な差異は見られない。
- ・さらに、コンピテンシーを社会人と比較すると、全項目において大きく下回る結果。



- ・専門学問の履修と同時に、コンピテンシーを高めることが卒業偏差値を高める上で重要な鍵と認識し、OECDキー・コンピテンシーを引用して同大学としての育成目標を定め、インターシップやPBL等を通じた教育に力を入れる。
- ・専門学問との繋がり確保（目的・プロセスの共有）に課題。

※OECDキー・コンピテンシー

- ①社会・文化的、技術的ツールを相互作用的に活用する能力（個人と社会との相互関係）
- ②多様な社会グループにおける人間関係形成能力（自己と他者との相互関係）
- ③自律的に行動する能力（個人の自律性と主体性）

※調査対象学生は任意参加（厳密なサンプル調査ではありません）

# 学校教育の評価と人材育成の課題

区分	項目	小学校	中学校	高校	大学	企業 不満比率
		意識して教育している比率				
規律	社会のルールや人との約束を守る	95.7%	91.9%	89.7%	78.5%	6.1%
意欲	学ぶごとに対して意欲的である	95.7%	88.7%	85.3%	77.6%	8.5%
	将来働くことに対して意欲・関心を持っている	80.4%	96.8%	94.1%	85.0%	11.0%
	将来の夢や目標を持っている	89.1%	93.5%	88.2%	80.4%	18.3%
	社会や地域で起こっていることについて関心を持っている	69.6%	79.0%	63.2%	72.1%	24.4%
基本行動	物事に進んで取り組む	95.7%	91.9%	82.4%	79.8%	19.5%
	目的を設定し確実に実行する	87.0%	90.3%	85.3%	80.4%	19.5%
	自分なりに考える	93.5%	82.3%	80.9%	78.5%	---
	自分の意見を分かり易く伝える	95.7%	91.9%	77.9%	84.7%	15.9%
	相手の話を丁寧に聞く	95.7%	88.7%	82.4%	75.2%	11.0%
チーム行動	他人に働きかけ巻き込む	63.0%	67.7%	38.2%	57.7%	45.1%
	意見の違いや立場の違いを理解する	89.1%	82.3%	75.0%	67.5%	17.1%
	自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する	60.9%	66.1%	61.8%	65.0%	17.1%
プロセスデザイン	現状を分析し目的や課題を明らかにする	71.7%	79.0%	60.3%	77.6%	34.1%
	課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する	71.7%	74.2%	55.9%	74.2%	42.7%
その他	ストレスの発生源に対応する	39.1%	54.8%	32.4%	44.2%	31.7%

教員が意識して取り組んだことは実を結んでいる。学校教育に不足しがちなのは、チーム行動や自らシナリオを描く経験。また社会や地域に関心を向ける機会等が求められる。

# 社会人基礎力の3つの能力・12の能力要素

## 前に踏み出す力(Action)

～一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～



- 主体性**  
物事に進んで取り組む力
- 働きかけ力**  
他人に働きかけ巻き込む力
- 実行力**  
目的を設定し確実に行動する力

指示待ちにならず、一人称で物事を捉え、自ら行動できるようになることが求められている。

## 考え抜く力(Thinking)

～疑問を持ち、考え抜く力～

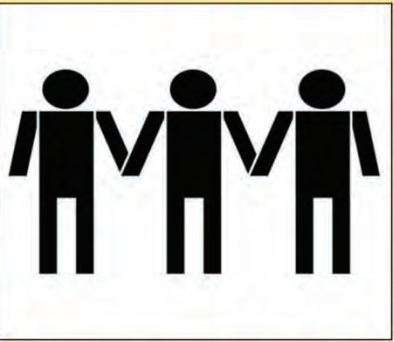


- 課題発見力**  
現状を分析し目的や課題を明らかにする力
- 計画力**  
課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する力
- 創造力**  
新しい価値を生み出す力

論理的に決まった答えを出すこと以上に、自ら課題提起し、解決のためのシナリオを描く、自律的な思考力が求められている。

## チームで働く力(Teamwork)

～多様な人々とともに、目標に向けて協力する力～

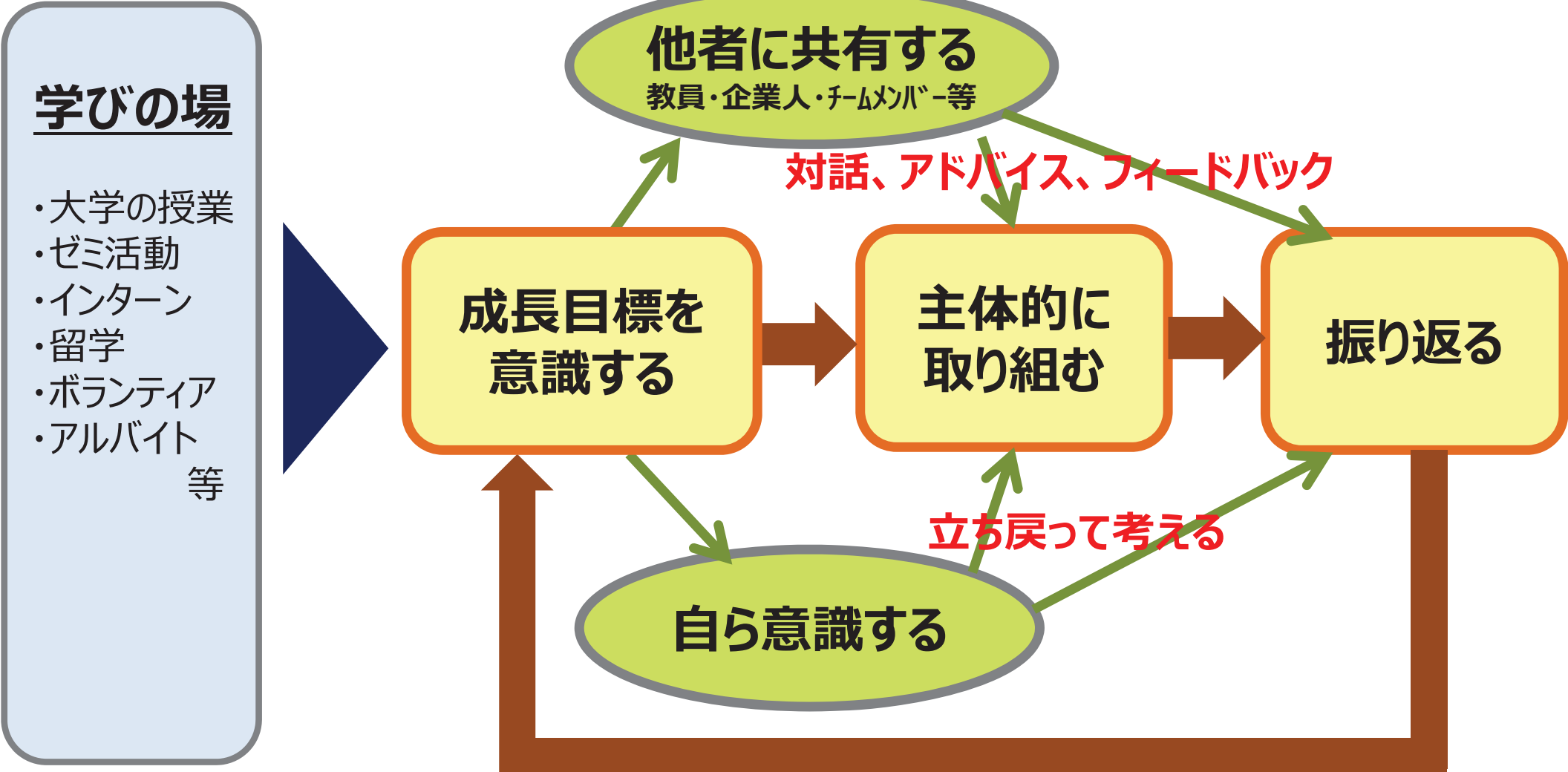


- 発信力**  
自分の意見をわかりやすく伝える力
- 傾聴力**  
相手の意見を丁寧に聴く力
- 柔軟性**  
意見の違いや相手の立場を理解する力
- 状況把握力**  
自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力
- 規律性**  
社会のルールや人との約束を守る力
- ストレスコントロール力**  
ストレスの発生源に対応する力

グループ内の協調性だけに留まらず、多様な人々との繋がりや協働を生み出す力が求められている。

# 社会人基礎力 = 「成長の針路」& 「対話の鍵」

# 社会人基礎力育成の基本的考え方



- 自ら主体的目標を持って望むことで、日常のあらゆる活動が有効な“学びの場”となる。
- 成長目標を“言葉”にし、意識して取り組むこと。周囲に共有しフィードバックをもらうこと。振り返り（自ら見つめ直し）、新たな目標につなげることが大切。

# 教育現場に求められる新たな視点

教育目標	・高度専門知識・能力の育成	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力・専門知識を活かす意識や行動の育成</li> </ul>
教育の場	・教室	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会・産業界</li> <li>・チーム活動の場</li> </ul>
教育ツール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書・専門書</li> <li>・学力テスト・レポート</li> </ul>	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会・企業等の現実</li> <li>・目標設定、フィードバック、内省</li> </ul>
教育方法	・Teach	+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Coach</li> <li>・Facilitation</li> <li>・Communication</li> </ul> <p>KeyWord “考えさせる”</p>

- 習うだけでなく、考え・行動しながら能動的に学んでいくことが求められている。
- 「教師が、学生に、教える」図式だけでなく、教師と学生、社会人と学生の『双方が、主体的に関わり合い、対話していく教育スタイルがますます重要に。
- 学校・教員と地域社会や産業社会との相互理解・連携がますます重要に。

# ご静聴ありがとうございました。

産業人材政策に関する情報はこちらをご覧ください

<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/index.html>

**【問い合わせ先】**

**経済産業省産業人材政策室**

**TEL:03-3501-2259**